

氏名	狩野 京子
授与した学位	博士
専攻分野の名称	看護学
学位授与番号	博甲第107号
学位授与の日付	平成28年3月24日
学位論文の題目	看護師の職業キャリア発達に関する基礎研究
学位審査委員会	主査 山口三重子 副査 高橋 徹 副査 荻野哲也 副査 川上貴代 副査 村社 卓

## 学位論文内容の要旨

本学位論文は、看護師のキャリア発達を高めるための教育的介入に関する基礎資料を得ることをねらいとし、人口学的特性、個人特性としての職業的アイデンティティおよび職業経験の質と職業キャリア発達に関連性を明らかにすることを目的に行ったものである。

本学位論文では、前記の目的を達成するために、1)職業キャリア成熟尺度および職業アイデンティティ尺度、職業経験の質評価尺度に関する構成概念妥当性および信頼性の検討を行うこと、また、2)人口学的特性、個人特性としての職業的アイデンティティおよび職業経験の質と職業キャリア発達の因果関係を明らかにすることを課題とした。

調査対象は、全国病院名簿に掲載された500床以上の総合病院297施設のうち、看護管理責任者の同意が得られた20施設に勤務する看護師3,239人とした。ただし、キャリア課題に着手しすでにその途上にある専門看護師、認定看護師などの資格保有者、主任や看護師長などの役職者を除外した。

調査内容は、人口学的特性として年齢、性別、看護師免許取得後の勤務年数、現施設での勤務年数、看護教育課程とした。個人特性としては「職業的アイデンティティ」、看護経験に対する認知的評価としての「職業経験の質」、職業キャリア発達の程度を示す「職業キャリア成熟」で構成した。

まず、第一の課題ではまず、坂柳(1999)の開発した「関心性」「自律性」「計画性」を下位概念とする職業キャリア成熟尺度を看護師用に文言を修正し、質問内容についても検討を行った。その結果、全15項目で構成される看護師用の「職業キャリア成熟尺度」を作成し、仮定した3因子二次因子モデルをデータに適合した結果、尺度が概念的次元性を備えていることが明らかになり、信頼性によって数量的次元性も支持された。また、職業的アイデンティティ尺度(2002)について確認的因子分析を行った結果、4因子二次因子モデルはデータに適合し、信頼性によって数量的次元性も支持された。そして、職業経験の質評価尺度(2004)の確認的因子分析の結果についても、6因子二次因

子モデルはデータに適合し信頼性によって数量的一次元性が支持された。

次に、第二の課題では、最初に、スーパー（1957）のキャリア発達理論を基礎とする Naidoo（1999）の「キャリア成熟因果関係モデル」を参考に、「職業キャリア成熟」を従属変数とし、その一次要因を個人特性、二次要因を人口学的特性とする因果関係モデルを仮定し、構造方程式モデリングを用いてそのモデルのデータに対する適合性を検討した。その結果、前記因果関係モデルはデータに適合した。特に、職業的アイデンティティが職業キャリア発達に強く影響し、また職業的アイデンティティには職業経験の質が強く影響していることが明らかになった。本研究では人口学的特性と個人特性の関係においては、年齢が高くなるほど職業的アイデンティティを経由して職業キャリア成熟が高まること、さらに現施設での経験年数が長い者ほど職業経験の質を通して、職業的アイデンティティや職業キャリア発達が高まることが明らかとなった。しかし、人口学的特性の影響度は否定できないものの特定の職業におけるキャリア発達にとって大きな影響を持つものではないことが示唆された。また、看護師は、看護という職業において自己の存在そのもの、すなわち、アイデンティティとしての自己のあり方や自己の意味、自己の価値を確信するプロセスの中でキャリア発達が促進されるものと推察された。本研究で取り上げた職業的アイデンティティは、「看護師選択への自信」「自分の看護観の確立」「看護師として必要とされることへの自負」「社会貢献への志向」で構成されており、いずれの因子についても軽視できないが、パス係数に着目するのであれば、とりわけ「自分の看護観の確立」が職業キャリア発達に大きな影響をもつことが示唆された。今後は看護師のキャリア発達にとって職業的アイデンティティの形成に着目する必要性があり、特に、看護観の確立に対する教育的関わりが重要であることが示唆された。

以上の知見を要約するなら、本学位論文においては、スーパーのキャリア発達理論を研究する Naidoo のキャリア成熟因果関係モデルと本質的に類似した結果が得られた。

すなわち、スーパーのキャリア発達理論が看護師のキャリア発達においても初めて統計学的に支持される知見を得たことになり、看護師の職業キャリア発達は、個人特性としての職業的アイデンティティおよび職業経験の質の影響を受けることが実証された。

今後は看護師教育において、職業キャリア発達を企図する介入にあたり、看護師の職業経験の質を高めつつもそれが看護観を高めることに有効に機能することを重視すべきものと推察された。

### 主業績

No.1	
論文題目	看護師の職業キャリア発達に関する基礎研究
著者名	狩野 京子、出井 涼介、實金 栄、中嶋 和夫、山口 三重子
発表誌名	日本看護評価学会誌. 5(1), pp1-10. 2015.

### 副業績

No.1	
論文題目	「看護職者職業経験の質評価尺度」に関する因子不変性の検討
著者名	狩野 京子、實金 栄、山口 三重子
発表誌名	岡山県立大学保健福祉学部紀要. 21(1), pp17-23. 2014.

### 関連業績

No.1	
論文題目	中堅看護職者のキャリア成熟に関する研究—看護師長によるサポートとキャリア成熟との関連—
著者名	狩野 京子
発表誌名	日本医学看護学教育学会誌. 24(1), pp28-35. 2015.
No.2	
論文題目	看護職者の「職業キャリア成熟測定尺度」に関する構成概念妥当性の検討
著者名	狩野 京子、李 志嬉、中島 望、實金 栄、山口 三重子、中嶋 和夫
発表誌名	岡山県立大学保健福祉学紀要. 19(1)pp19-29. 2012.

## 論文審査結果の要旨

本学位論文は、スーパーのキャリア発達理論を本邦の看護師を対象に演繹的に検証した研究である。本研究は看護師のキャリア発達を高めるための教育的介入に関する基礎資料を得ることをねらいとし、人口学的特性、個人特性としての職業的アイデンティティおよび職業経験の質と職業キャリア発達に関連性を明らかにすることを目的に 1) 職業キャリア成熟尺度、職業アイデンティティ尺度、職業経験の質評価尺度に関する構成概念妥当性および信頼性の検討を行うこと、また、2) 人口学的特性、個人特性としての職業的アイデンティティおよび職業経験の質と職業キャリア発達の因果関係を明らかにすることを課題とした。

まず、第一の課題では坂柳(1999)の開発した職業キャリア成熟尺度を看護師用に修正し、モデルをデータに適合した結果、概念的次元性を備えた、15項目で構成される看護師用の「職業キャリア成熟尺度」を作成した。落合による「職業的アイデンティティ尺度(2002)」の確認的因子分析を行った結果、モデルはデータに適合し、数量的次元性も支持された。そして、鈴木による「職業経験の質評価尺度(2004)」の確認的因子分析の結果についてもモデルはデータに適合し、信頼性によって数量的次元性が支持された。

第二の課題では、スーパー(1957)のキャリア発達理論を検証するために我が国の看護師を対象とした調査において、「職業キャリア成熟」を従属変数とし、その一次要因を個人特性、二次要因を人口学的特性とする因果関係モデルを仮定し、構造方程式モデリングを用いてモデルのデータに対する適合性を検討した。その結果、モデルはデータに適合し、スーパーのキャリア発達理論が看護師のキャリア発達においても、初めて統計学的に支持される知見を得、看護師の職業キャリア発達には個人特性としての職業的アイデンティティおよび職業経験の質の影響を受けることが実証された。特に、職業的アイデンティティが職業キャリア発達に強く影響していることが明らかになった。

これらのことから、看護師のキャリア発達には職業的アイデンティティの形成に着目する必要性があり、看護師教育において、職業キャリア発達を企図する介入には看護師の職業経験の質を高めつつ、看護観を高めることが有効に機能することが示唆された。以上の結果より、学術上、実際上ともに看護学分野の発展に、寄与するところが少なくない。よって、本論文は博士(看護学)の学位論文として価値あるものと認める。